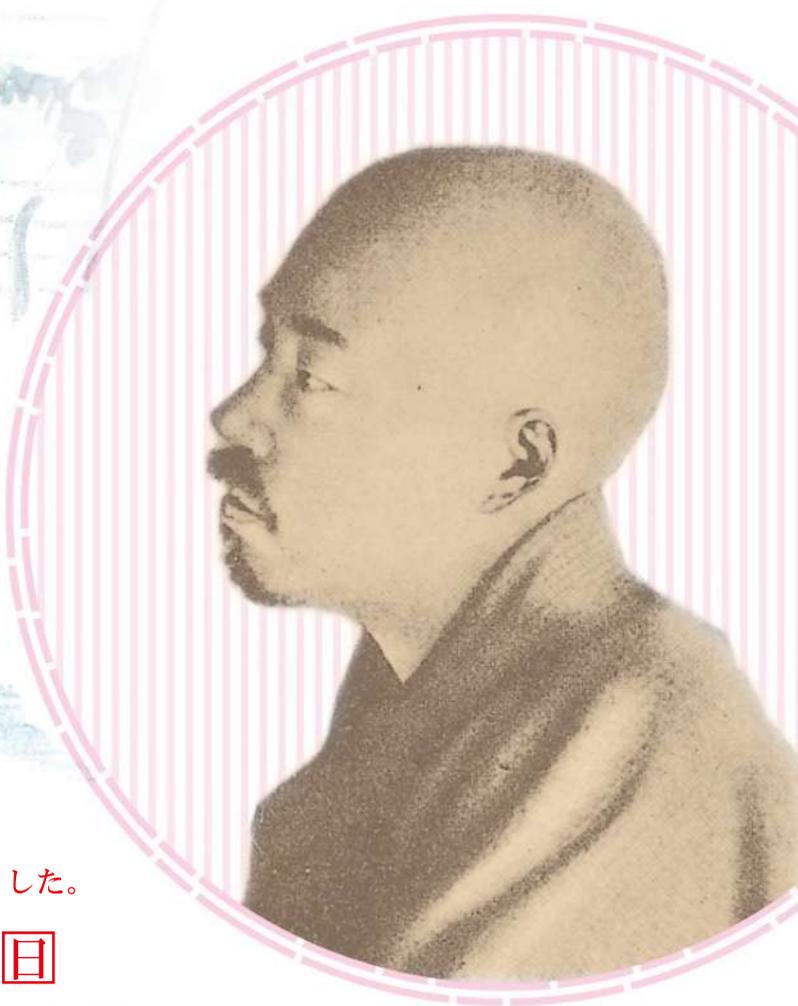


田端文士村記念館 企画展

正岡子規 の系譜

田端の



※終了日は変更しました。

2021年 2月9日 火 ~ 4月25日 日

会場：田端文士村記念館

【JR山手線・京浜東北線「田端駅」より徒歩2分】



開館時間：10:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日：月曜日(祝日の時は火・水曜)・祝日の翌日(土日の時は翌火曜)

【主催・問合せ】(公財) 北区文化振興財団 田端文士村記念館 ☎03-5685-5171

【共催】東京都北区

【協力】鹿児島壽規、(公財) 虚子記念文学館、群馬県立土屋文明記念文学館、
(一財) 子規庵保存会、潮音社、松山市立子規記念博物館、山梨県立文学館

※本紙に掲載した水彩画は正岡子規「仰臥巻録」(複製)より(原本は虚子記念文学館所蔵)
※新型コロナウイルス感染状況により内容が変更になる場合があります。最新情報は記念館ホームページ等でご確認ください。

常設展示スペースで同時開催

芥川比呂志 没後40年特別展

正岡子規の系譜

田端の

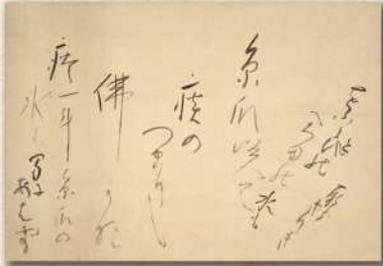


東京根岸に暮らし田端・大龍寺に眠る正岡子規。俳句・短歌の革新、写生文の提唱など子規の功績は、没後100年以上を経てなお輝きを放っています。田端には直弟子の香取秀真をはじめ、教えを継いだ短歌結社「アララギ」で活躍した土屋文明、鹿児島寿蔵など、子規の流れをくむ歌人たちが住みました。

また、歌誌『潮音』を創刊・主宰した太田水穂・四賀光子夫妻、田端の「王様」芥川龍之介も多くの歌を残しています。

本展では歌人としての子規の一面と、子規に影響を受けた田端の歌よみたちの作品を紹介します。

正岡子規



▲正岡子規「絶筆三句」(複製)
※子規が亡くなる数時間前に書いたへちまの句

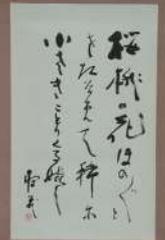
土屋文明



▲土屋文明 書幅
「とのはぬ頭の丹いろあはあはし
稚鶴は造池の水を渡りぬ」
※文明が寿蔵に贈った歌

▶鹿児島寿蔵 書幅
「桜桃の花ほのくとさきそめて
稀に小さきことりくる嬉し」

鹿児島寿蔵



初公開



香取秀真

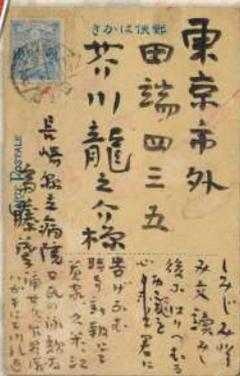


▲香取秀真 柴田育曲宛 葉書 (昭和17年)
※「子規全集」編纂を秀真らと尽力した育曲宛の歌と絵入りの葉書

壁面にずらりと並ぶ歌よみの 三十一文字に込めたおもい

▶斎藤茂吉 芥川龍之介宛 葉書 (大正8年)
※龍之介の文章を読んだことを伝える茂吉の歌入りの葉書

初公開



芥川龍之介



▶太田水穂 色紙
「うなばらは波うちらとしら雪の
富士もあそばむ島日和なり」



左より四賀光子、太田青丘、太田水穂
※田端自宅前での家族写真



常設展示スペースで同時開催 芥川比呂志 没後40年特別展

芥川龍之介の長男として田端で過ごした幼少期から、太宰治、三島由紀夫らとも交遊した俳優・演出家としての田端以後の人生にいたるまで、父の影と共に歩みながらも自らの道を切り開いた芥川比呂志。その魅力について紹介します。



主催・問合せ

(公財)北区文化振興財団

田端文士村記念館

〒114-0014 東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171

JR山手線・京浜東北線「田端駅」より徒歩2分

※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

<https://kitabunka.or.jp/tabata/>

@bunshimura

【写真提供】正岡子規(表裏ともに): 松山市立子規記念博物館、土屋文明: 群馬県立土屋文明記念文学館、鹿児島寿蔵: 鹿児島県立文学館、芥川龍之介: 国立国会図書館、太田水穂一家: 潮音社